

第14回  
全国果樹技術・経営コンクール  
受賞者の概要

主 催 全国果樹技術・経営コンクール実行委員会  
（全国農業協同組合中央会  
全国農業協同組合連合会  
日本園芸農業協同組合連合会  
全国果樹研究連合会  
公益財団法人 中央果実協会）

後 援 農 林 水 産 省  
日 本 農 業 新 聞

## 第14回全国果樹技術・経営コンクール 受賞者

### ○農林水産大臣賞

栃木県	山口 幸夫、山口 美輝
山梨県	フルーツ山梨農業協同組合菱山支所露地ぶどう部
奈良県	上西 正晃、上西 仁美
和歌山県	稻住 昌広、稻住 由季

### ○農林水産省生産局長賞

山形県	東根果樹研究会・遅もぎラ・フランス出荷会
山梨県	廣野 真一、廣野ゆかり
愛知県	齋藤 光俊
鳥取県	鳥取いなば農業協同組合郡家支店果実部
福岡県	溝田 敬介
長崎県	八並 秀敏、八並 節子

### ○全国農業協同組合中央会会長賞

静岡県	真野 高志、真野 泉
宮崎県	宮崎中央農業協同組合パパイア研究会

### ○全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長賞

岩手県	江釣子わい化りんご生産組合
香川県	品治 秀直、品治 美千代

### ○日本園芸農業協同組合連合会会長賞

徳島県	JA大津なし部会
愛媛県	米花 利八郎、米花 良子

### ○全国果樹研究連合会会長賞

北海道	渡辺 洋
大分県	友田 明彦、友田 裕子

### ○公益財団法人 中央果実協会理事長賞

青森県	有限会社 宝荘
-----	---------

## はじめに

全国果樹技術・経営コンクール実行委員会

委員長 吉國 隆

当コンクールは、平成11年度から、生産技術や経営方式等において他の模範となる先進的な農業者、生産団体等を表彰し、その成果を広く紹介することにより、我が国果樹農業の発展に資することを目的として発足したものです。

近年の果樹農業を取り巻く環境には厳しいものがあり、高齢化の進展や後継者不足、耕作放棄地の増加等による生産基盤の脆弱化、需要の伸び悩みや価格の変動などの問題に直面しております。このような状況に対応し、現在、果樹農業振興基本方針に即して、消費者ニーズに沿った品目・品種への転換、その後発生する未収益期間の支援、新たな加工需要の開発等果樹農家の経営安定と産地の活性化のための幅広い支援策が実施されるとともに、食育と一体となった「毎日くだもの200グラム運動」など果実の消費拡大対策が進められております。

このような施策が所期の成果をあげるためには、関係者の主体的な活動、とりわけ、産地の自助努力が必要かつ不可欠であり、産地振興の中核的役割を担っている方々の活動が最も重要であります。

このため、技術・経営のモデルとして受賞者の成果を広く普及するとともに、先進的な取り組みを実践している産地・生産者を励まし、施策の具体的な推進の中核的役割を担っていただくという視点から実施される当コンクールは、大変意義あるものと考えております。

第14回コンクールの受賞者の技術・経営の概要は以下に取りまとめられているとおりでありますが、いずれも、各地域において困難な諸条件を克服しつつ、独自の創意工夫や最新の知見の活用、計画的・効果的な投資、集団・地域の合意形成等主体的、積極的な実践によって、高い水準の技術・経営を身をもって達成し、他の模範となる方々であります。

受賞者の皆様には、長年にわたるご努力、ご研鑽に対し深く敬意を表し、心からのお祝いを申し上げるとともに、受賞を契機に、今後とも地域更には全国の果樹農業の中核的な先導者として一層ご活躍されるよう期待する次第であります。

終わりに、ご指導・ご協力を賜りました農林水産省をはじめ関係機関・団体の皆様、厳正な審査に当たられた審査委員の方々に対し、深甚の感謝を申し上げるとともに、引き続き本事業が多くの果樹農業者の啓発や士気・意欲の高揚、更には我が国果樹農業の新たな発展に資する意義深いものとなるよう、今後ますますのご支援をお願い申し上げます。

## 農林水産大臣賞

○ 栃木県 宇都宮市 (日本なし)  
山口 幸夫 山口 美輝

日本なし 330 a を栽培する、なし専作経営である。

経営面では、ハウス栽培、晩生種導入による労働力分散、省力樹形、共有授粉樹園、棚整備や多目的防災網の共同作業の活用で省力化・規模拡大を実現している。販売方法は、JA市場出荷 64%、直販所・インターネット通信販売 36%で、ジュース、紅茶・ドライフルーツなどの加工品開発で規格品外の有効利用と 6 次産業化を目指している。また、夫婦と両親の家族経営協定で、役割分担、毎月の専従者給与、8 時間労働、月 4 回の休日等を実践している。

技術面では、ハウス栽培を地域で最初に導入し、露地より 40 日早く出荷している。樹形が単純で作業がしやすく、植栽本数が 10 a 当たり 56 本で従来より多く、着果負担が小さい「H型樹形」を導入している。

地域にあっては、農業後継者の研修、児童・生徒の農業体験、障害者の就労受け入れを実施している。

○ 山梨県 甲州市 (ぶどう)  
フルーツ山梨農業協同組合菱山支所露地ぶどう部  
(代表者 飯島 太郎)

ぶどう 74 h a、戸数 110 戸、出荷額約 5 億円の JA 生産部会である。

経営面では、早くから「巨峰」・「ピオーネ」への転換を進め、約 20 年間全国でトップクラスの「種なしピオーネ」の産地を築いている。また、品種の組み合わせと冷蔵貯蔵施設等を活用した長期出荷、標高別の糖度・酸度調査による適期収穫、舟形袋利用の脱粒防止、生産者識別コードによるトレーサビリティなどにより高単価販売に取り組んでいる。

技術面では、県共進会において部会メンバーが農林水産大臣賞の 3 割強を受賞するなど、「菱山のぶどう」としてのブランドを全国的に確立している。また、全員がエコファーマーを取得し、防除日誌の作成、GAP の取組など、食の安全・安心に取り組んでいる。

また、短梢剪定や花穂伸長技術を導入して、省力化に取り組んでいる。

○ 奈良県 五條市 (かき、キウイフルーツ、うめ等)  
上西 正晃 • 上西 仁美

露地かき 550 a、ハウスかき 73 a、キウイフルーツ 35 a、うめ 100 a、なし 10 a 合計 768 a を栽培する果樹複合の大規模経営である。

経営面では、国営農地開発事業への入植、借地と購入で自宅周辺と車で 10 分以内に農地を集積するとともに、園地及び作業道整備により、スピードスプレーヤーなど 100% の機械化、防霜ファン設置など超省力経営を実現している。また、時期が異なる複数品目、品種、ハウスの導入で作業の平準化を図り、出荷・入金時期の分散によりキャッシュフローが健全な経営を実現している。

また、家族の積極的参加により分担を決め、効率的な作業展開を図っている。

地域にあっては、多品目大規模経営の見本になるとともに、JAならけんハウス柿部会長、同青壮年部副会長として、地域農業を牽引している。

○ 和歌山県 有田郡有田川町 (かんきつ)  
稻住 昌広 • 稲住 由季

温州みかん 370 a、中晩柑 50 a、計 420 a の大規模かんきつ経営である。

経営面では、スプリンクラー、スピードスプレーヤー (SS)、モノラック、園内道、移動式クレーン、家庭選別機の導入などで省力化を図っている。

また、10 月の極早生みかんから 4 月の「不知火」まで、7か月間の長期間の出荷で労働力分散を図るとともに、家族経営協定を結び農作業を分担して合理化し、家族 4 人労働を中心に経営を展開している。

生産技術面では、県内で初めてみかんの「マルドリ栽培」(周年マルチ及び点滴かん水同時施肥法)を導入し、点滴かん水とみかんの高品質中玉生産のための後期重点の摘果により、木成り完熟などの高糖度生産を行うとともに、太枝の間引きや摘蕾により、隔年結果を是正し、毎年 10 a 当たり平均 4 トンの安定多収を実現している。

また、園地ごとの品種系統の統一と SS の導入により農薬散布量の軽減を図るなど、品質と環境に配慮した経営を実施している。

地域にあっては、収益性の高い大規模かんきつ経営の実践が、後継者不足で苦戦する地域の刺激となり、模範となっている。

## 農林水産省生産局長賞

○ 山形県 東根市 (西洋なし)  
東根果樹研究会・遅もぎラ・フランス出荷会  
(代表者 高橋 健治)

西洋なし 2ha、参加農家 6 戸、出荷額約 2 千万円のギフト向け販売を中心とした組織である。

技術面では、食味向上を図るため、通常の収穫時期より遅くまで樹上におき、ヨードカリ反応、果肉硬度等で収穫期判定を行い、果実品質のバラツキの解消と食味向上を図る「遅もぎ」の適期収穫を徹底している。また、全員がエコファーマーで、農薬の適正使用と生産履歴のチェックに努めている。

販売面では、「ラ・フランス」の品質のばらつき解消と食味向上を図るため、「遅もぎラ・フランス」の栽培基準を設定し、「おいしさへのこだわり 遅もぎラ・フランス」として商標登録、ギフト向けの差別化商品として販売している。全国各地の百貨店、大型スーパーの高級果物専門店で試食宣伝活動を展開するとともに、対面販売等での消費者ニーズの把握やクレーム「ゼロ」を目指した生産と選果に努めている。

こうしたブランド化の取組は、地域の生産者の励みとなっている。

○ 山梨県 笛吹市 (ぶどう)  
ひろの 廣野 真一・ひろの 廣野 ゆかり

施設ぶどう 50a、露地ぶどう 92a、露地もも 10a、合計 152a の果樹専作経営である。

経営面では、「超早期加温栽培」の施設栽培を柱に、露地栽培を組み合わせて、作業効率と収穫時期の分散を図り、4月上旬から 10 月中旬の長期出荷を実現し、経営を安定化している。

技術面では、「キングデラ」、「ピオーネ」の「超早期加温栽培」の導入により、露地の 3 倍の高い収益を上げるとともに、短梢剪定栽培及びジベレン処理の工夫により、省力化を実現している。

また、化学合成農薬と化学肥料の削減と有機質施肥を主体とした土づくりにより、高品質な果実生産と環境にやさしい農業に取り組んでいる。

地域にあっては、施設・露地栽培のぶどう生産技術は地域の模範となっており、石和町農業後継者会会長、青年農業士、JA 露地ぶどう部役員などを歴任し、地域の農業後継者の指導的役割を果たしている。

○ 愛知県 西尾市 (日本なし)  
齋藤 光俊

日本なし 130 a のなし専作経営で、雇用労力なしの家族労働力 3 人で対応している。

経営面では、標高差のある園地の開花時期の差を利用して授粉作業の分散を図るとともに、冷蔵貯蔵による長期販売を実施している。販売は、庭先が約 7 割、産直施設への出荷が約 3 割で、消費者が求める高品質ななしを販売することにより、高い農業所得を実現している。

技術面では、枝が一定方向で作業性に優れる 2 本主枝仕立てを独自に改良するとともに、地域で希な中生品種の無袋栽培、積極的な機械導入等で、10 a 当たり年間労働時間は県モデルの 2 分の 1 の 177 時間になっている。

また、2 本主枝仕立ての密植栽培と高接ぎ更新の工夫により、早期成園化を実現している。

地域にあっては、組合長として、交信かく乱剤や黄色防蛾灯の活用、GAP の取組等により産地をリードしている。

○ 鳥取県 八頭郡八頭町 (日本なし)  
鳥取いなば農業協同組合郡家支店果実部  
(代表者 西尾 愛治)

日本なし 33.5 h a、かき 42.7 h a、農家数 105 戸、出荷額約 2 億 7 千万円、うち日本なし約 1 億 4 千万の JA 生産部会である。

経営面では、県内で先駆けて、なしの光センサーを導入し、これを契機に、「味重視」で、早期出荷をやめ、9 月に入って「味がのってから出荷」を基本に、出荷後半の単価低下を単価の高い進物販売で補っている。

また、年によって糖度基準の変更を一切しないことで、市場、仲卸、消費者から高い評価を受けている。

技術面では、部内に指導班を設け、指導会を実施し、ほ場の栄養診断、着果量把握、病害虫防除、夏肥施用などの助言を行っている。

こうした取組から、産地から信頼できる選果場として認められ、管内の県オリジナル品種の「なつひめ」、「新甘泉」の一元選果を行っている。

○ 福岡県 八女市 (ぶどう)  
溝田 敬介

施設ぶどう 204 a のぶどう専作経営で、家族 3 人と常時雇用 2 人で対応している。

経営面では、加温は、「巨峰」 103 a、「ピオーネ」 12 a、「デラウェア」 9 a で行っており、出荷時期は、4 月下旬の「デラウェア」から 11 月の二期作「巨峰」まで長期出荷体制を確立している。

園地を自宅から 300m 以内に集積して作業を効率化するとともに、三重被覆、省エネ型暖房機の導入等により燃料費を節減、短梢栽培とジベレリン 1 回処理、小房管理などにより省力化を図っている。

また、防根シートの高畠栽培の根域制限栽培で樹勢コントロール、炭酸ガス施用で品質向上を図るとともに、「巨峰」の超早期加温栽培において二度切りによる二期作栽培技術を確立し、生産安定につなげている。

氏の栽培技術の高さは地域の模範となるとともに、県ぶどう部会長などを歴任し、地域のぶどう産地の発展に貢献している。

○ 長崎県 佐世保市 (かんきつ)  
八並 秀敏・八並 節子

露地みかん 240 a、越冬完熟栽培の無加温ハウスみかん 36 a、合計 276 a のかんきつ経営である。

経営面では、優良系統「させぼ温州」等への改植、スピードスプレーヤー (SS) の導入、園地改造及び園内道整備に取り組み、農作業の負担軽減を図ることで、露地みかん園の約 9 割が SS による防除体系となっている。

技術面では、すべての結果樹園でシートマルチ栽培と有機質 100% 肥料施用等による高糖度果実生産を実践し、特に、させぼ温州ブランド率 93% (地域平均 77%) とトップクラスの品質を実現している。

また、隔年結果しやすい越冬完熟栽培の無加温ハウスみかんでは、徹底した土づくりと摘蓄による翌年の結果母枝を確保することで、3 年連続 10 a 当たり 5 トン以上の収量を上げている。

地域にあっては、JA かんきつ部会長の時に、「させぼ温州」苗木導入を積極的に推進し、現在の「させぼ温州」産地化の基礎を築くなど、地域振興に貢献している。

## 全国農業協同組合中央会会長賞

○ 静岡県 沼津市 (かんきつ)  
まの たかし まの いづみ  
真野 高志 ・ 真野 泉

露地の温州みかん 210 a を栽培するかんきつ専作経営である。

経営面では、出荷量が 70%を占める「寿太郎温州」を主体に、9月中旬の極早生から4月上旬の冷風貯蔵の「寿太郎温州」までの長期出荷体制を確立している。

また、傾斜園地が多いことから、規模拡大せず、販売単価の高い品種「寿太郎」への転換、冷風貯蔵施設の導入、家庭選果の効率化のための小型リフトの導入などで収益向上を図っている。

技術面では、所有するバックホーを活用しての改植、園内道整備、傾斜の緩和などで園地改造するとともに、「寿太郎温州」の低樹高栽培にも取り組み、管理作業を軽労化している。

こうした取組により、家族労力で可能な安定経営を実現し、貯蔵みかん産地西浦のモデル経営農家となっている。

○ 宮崎県 宮崎市 (パパイア)  
みやざき みやざきし (パパイア)  
みやざきちゅうおうのうぎょうきょうどうくみあい けんきゅうかい  
宮崎中央農業協同組合パパイア研究会  
(代表者 田代 敏徳) たしろ としのり

パパイア 242 a、参加農家 10 戸、出荷額約 5 千万円の JA 生産部会の研究会である。

経営面では、早くからパパイアの生産に取り組み、園地状況や栽培方法の確認、目揃え、一元選果により品質・規格の統一を図り、補完品目として導入したパパイアを、主幹品目に育成している。現在、JA の共同販売で関東市場に 7 割を出荷し、高級果実店から量販店まで取り扱われ、安定した取引を行なっている。

技術面では、4 年で改植を要することから、研究会内で優良苗木を育成するとともに、周年開花結実に対応して、土壤分析と有機質肥料の毎月施用による肥培管理を行っている。

また、320 種の農薬を 2 時間で一斉に分析する「宮崎方式」残留農薬分析システムを活用して、全ての部会員の生産履歴の記帳・提出と併せて、安全・安心なパパイアの出荷に努めている。

## 全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長賞

○ 岩手県 北上市 (りんご)  
江釣子わい化りんご生産組合  
(代表者 高橋 敬二)

りんご 12.5 h a、戸数 36 戸、出荷額約 17 百万円の農作業機械共同利用組織である。

経営面では、米の生産調整を機に、水稻単作経営から、地域ぐるみでりんごを導入し、複合経営を発展させている。また、生協との委託生産契約によるオーナー制りんごに早くから取り組み、雹害では被害果実を「えくぼりんご」、「ほくろりんご」という名称で、生協の共同購入につなげている。また、全員がエコファーマーに認定され、その生産物はJAで別選果し、「なちゅりん」として予約相対取引で販売している。晩生種は7割が贈答、産直で有利販売を行っている。

技術面では、県オリジナル品種の「きおう」を先駆的に導入し、また、害虫発生予察活動と交信かく乱剤利用による農薬散布回数の削減、大苗移植栽培、低樹高栽培の実証試験等に積極的に取り組んでいる。

○ 香川県 坂出市 (かんきつ)  
品治 秀直・品治 美千代

露地の温州みかん 96 a を中心とした計 105 a のかんきつ専作経営である。経営面では、地域オリジナル品種「小原紅早生」の栽培にいち早く取り組み、生産量の拡大と品質向上を図ることで有利販売による高収益果樹経営を実践し、他の生産者の模範となっている。

技術面では、「マルドリ栽培」のかん水時期の工夫により高糖度を達成している。さらに、後期重点摘果技術や袋かけ完熟栽培により樹上で完熟させて1月に収穫する方式で、労力分散と高糖度かつ柔らかいじょうのう膜で袋ごと違和感なく食べられる果実を生産し、高単価な贈答用高品質商材として、収益向上を実現している。

また、「マルドリ栽培」のタンクに液肥混入装置を設置して、年3回の施肥作業を自動化するとともに、主枝を横向きに整枝する低樹高化、園内作業道の設置などで省力化を実践している。

## 日本園芸農業協同組合連合会会長賞

○ 徳島県 鳴門市 (日本なし)  
JA 大津なし部会  
(代表者 川添 誠司)

日本なし 50 ha、参加戸数 65 戸、出荷額約 3 億 4 千万円の JA なし部会である。

経営面では、全国に先駆けて「幸水」、「豊水」に更新し、西日本有数の赤梨産地を形成している。また、高い気温を活かし、早期摘果とジベレリン処理などで早期出荷により有利販売するとともに、光センサーの導入により、糖度、形状、内部品質を判別し、均一化された品質の定量・定時出荷を実現している。

また、県版 GAP の「とくしま 安農産物(安<sup>2</sup>GAP)認証」を取得するとともに、商標登録している「うず潮なし」が「とくしま特選ブランド」に認定されるなどブランド化を図っている。

技術面では、4 m 四方植えの密植による多収栽培を実施し、また、交信かく乱剤、生物農薬「バイオセーブ」使用による化学肥料の削減、大苗移植による産地の若返りに取り組んでいる。

こうした集団活動は、部会員の経営安定と後継者の確保につながっている。

○ 愛媛県 八幡浜市 (かんきつ)  
米花 利八郎 • 米花 良子

温州みかん 293 a、ハウス中晩柑 22 a、計 315 a のかんきつ経営である。

経営面では、農地斡旋制度の利用等で規模拡大を図り、スプリンクラーの導入や園内道整備により省力化・軽労働化を実現している。また、県オリジナル品種の「甘平」の無加温施設を導入し、経営リスクと労力分散を図り、家族労働 3 人と収穫期の臨時雇用で対応している。

技術面では、傾斜地園地が多いことから、スプリンクラーを防除とかん水に活用し、大幅に省力化を実現している。また、開閉式マルチによる水分管理、芽吹かす切り返しのせん定と上向き果の摘果により、バラつきの少ない高品質みかんを生産している。

地域にあっては、改植により園地の若返りを図るなど経営改善に積極的で、地区のモデル的な栽培を行い、地域のリーダーとして、共選組織の役職を歴任し、生産対策や販売対策に尽力している。

## 全国果樹研究連合会会長賞

○ 北海道 余市郡仁木町 (とうとう、プルーン、ぶどう等)  
　　わたなべ ひろし  
　　渡辺 洋

とうとう 90a、プルーン 100a、ぶどう 100a、りんご 15a、合計 305 a の果樹専作経営である。

経営面では、地域で先駆けて、りんご、ぶどうからとうとう、プルーンへ転換し、新たな経営モデルを構築するとともに、とうとうでは、在来品種から「佐藤錦」、「南陽」への品種転換と雨よけ栽培の導入、交配樹導入、低樹高化等により高品質果実の安定生産を実現している。プルーンでは、地域の組織化や雨よけ施設の導入で、高品質安定生産に親子二代にわたって研究・普及機関に協力し、北海道のとうとう及びプルーンの栽培面積が全国 2 位になるなど、道果樹農業の基幹作物としての定着に貢献している。

技術面では、「北のクリーン農産物表示制度（YES ! clean）」の実証展示として協力し、町内果樹のりんご、プルーン、とうとう等の登録に、生産組織の中心となって牽引している。

○ 大分県 宇佐市 (ぶどう)  
　　ともだ あきひこ  
　　友田 明彦 ・ 友田 裕子

ハウス 60a、雨よけ 30a、合計 90a のぶどう専作経営である。

経営面では、加温と雨よけの組み合わせで収穫労力を 7 月上旬から 9 月中旬に分散、主力品種の「ピオーネ」を平行整枝短梢剪定で作業を単純化し、さらに、スピードスプレーヤー、乗用草刈機、自動換気システムなどで省力化を図り、家族 2 名の自己完結型経営を実践し、I ターン 8 年目に相当の売上額を達成し、新規就農の地域モデルとなっている。

技術面では、長期被覆栽培で燃油 4 割削減し、炭酸ガス施用、マイクロナノバブル活用、「シャインマスカット」の新規導入など積極的に新技術や新品種を導入するとともに、エコファーマーの認定を受け、有機物肥料の積極的な投入で化学肥料を 3 割削減、交信かく乱剤の利用で農薬散布回数を軽減など環境に配慮した栽培技術にも取り組んでいる。

こうした活動で「指導農業士」にも認定され、後継者の育成にも尽力し、地域のリーダーとして地域農業を牽引している。

## 公益財団法人中央果実協会理事長賞

○ 青森県 弘前市 (りんご)  
有限会社 宝荘  
(代表者 花田 哲也)

りんご 650 a のりんご専作経営で、りんご生産に加えて生鮮りんごとりんごジュース販売を手がける有限会社である。

経営面では、早くから、県特別栽培農産物に取り組み、消費者の安全・安心志向に対応したりんご生産を実現している。光センサー導入による品質の向上と併せ、多様な販売先（百貨店、量販店、通販会社）を開拓し、生鮮りんごの販売増加を図るとともに、りんごジュースも全国ネットの運輸会社とタイアップして販売を拡大している。

技術面では、堆肥を積極的に導入した土づくりによる特別栽培農産物の取組は、農薬の半減、化学肥料の無施用で大幅にコストを削減するとともに、県の優良事例として地域の模範となっている。

地域にあっては、県青年農業士に認定され、農業後継者育成機関の県農業者大学校の農家派遣研修生、学生を数多く受け入れるなど後継者の育成に尽力している。